

様式第5号（第10条関係）

パブリックコメント実施結果報告書
【案件名：第3次つくば市環境基本計画
[改定版]（案）】

令和8年（2026年）3月
つくば市生活環境部環境政策課

■ 意見集計結果

令和7年12月8日から令和8年1月7日までの間、（第3次つくば市環境基本計画〔改定版〕（案））について、意見募集を行った結果、5人（団体を含む。）から11件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数（団体を含む。）
直接持参	2人
郵便	1人
電子メール	0人
ファクシミリ	0人
電子申請	2人
合計	5人

■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

○ 教育・啓発について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	環境基本計画等で示される大きなテーマ等に対して関心を持ち、理解を深めてもらうためには、身近な多様な取組が、大きなテーマに関わっているという事実をしっかりと伝えることが重要である。	1件	市民に実感がわくように分かりやすく伝えていくことは非常に重要なことと考えています。本計画では、市の施策に加えて「市民に期待される取組」を示し、市民にも具体的イメージが付きやすいよう努めています。今後実施していく施策についても、市民の関心と理解が深まるよう、分かりやすい発信に努めていきます。
2	環境基本計画（案）は関係施策を網羅し、目標数値も設定されており全体として良い内容であると考えます。 このような計画があることと、市民が自分にできる具	1件	環境基本計画や関連施策についてわかりやすく周知することは重要であると認識しています。 市民が自分ごととして捉え、行動変容につながるような情報

<p>体的な目標を認識することが重要である。</p> <p>したがって、市民にわかりやすく説明し周知することが今後最も重要な課題だと考える。</p> <p>特に地球温暖化対策は緊急の課題であり、市民の行動や意識の変容を早急に促す必要がある。</p> <p>審議会としては、計画策定後も施策の進捗を継続して注視し、具体的な取り組みに結びつけてほしい。</p>		<p>を発信していきます。</p> <p>また、計画策定後も施策の進捗状況を適切に把握し、効果的な取組につなげていきます。</p>
--	--	---

○ まち・建物の脱炭素化・レジリエンスの向上について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	<p>「施策の柱1-2 まち・建物の脱炭素化」における施策の方向性「省エネルギー化の推進」において、燃料電池（エネファーム）の普及等を加味し、電化に等を追記することをご提案します。</p> <p>【理由】</p> <p>「つくば市クリーンエネルギー機器設置事業補助金」に伴い省エネルギー化及びエネルギーの地産地消が促進され、確実に広がっています。また、家庭用燃料電池システム（エネファーム）では、高い環境性能に加えレジリエンス機能が搭載され停電時でも電気とお湯の使用が可能です。</p>	1件	<p>エネファームは、発電と熱利用を同時に行うこと、また、発電所から送電される電力を使用する場合と比べ送電ロスがないことなどから、エネルギー効率が高く、環境にやさしい設備です。ガスを使用するため、CO2 排出量が0とはなりません。将来的には、メタネーション等の技術革新により、脱炭素に大きく資する可能性があるものと考えています。</p> <p>エネルギーの脱炭素化がしやすいという点で「電化」という記載としておりましたが、御意見を踏まえ、本計画期間である2030 年度に向けては、エネルギー低炭素化という点も含め、「電化等」という記載に修正します。</p>

2	<p>「施策の柱 1-2 まち・建物の脱炭素化」における施策の方向性「再生可能エネルギーの導入促進と活用」において、再生可能エネルギーに環境価値付きエネルギーを含むことを追記することをご提案します。</p> <p>【理由】 再生可能エネルギーの導入は、脱炭素社会実現のための地球温暖化対策とエネルギー安定供給に不可欠です。特に、環境価値付きエネルギーの活用は、温室効果ガス削減に加え、地域のエネルギー循環や経済活性化にも貢献します。再エネ設備設置の制約がある現状では、既存の電気やガスに環境価値を付与することで、脱炭素化を加速し、温室効果ガス排出量を実質的に削減できると考えられます。</p>	1 件	<p>電力やガスの使用に由来する温室効果ガス排出量の証書等によるオフセットが、社会全体として実際にどれだけの温室効果ガス排出量削減につながっているかということは、把握が難しいものと考えます。</p> <p>このため、本計画には記載せず、今後の「つくば市地球温暖化対策実行計画区域施策編」のPDC Aサイクルの中で、証書によるオフセットがどのくらい認められるか注視しながら、今後の検討事項とします。</p>
3	<p>「施策の柱 1-4 気候変動への適応」における施策の方向性「気候変動と関連する災害による影響の低減」において、レジリエンスが高く、災害時でも使用できるエネルギーインフラの整備について追記することをご提案します。</p> <p>【理由】 都市ガスの導管網および都市ガス消費機器の促進を</p>	1 件	<p>災害に備えた電源の複数化は重要と考えていますが、エネルギーインフラについては、市が直接整備を行うものではないため、記載はこのままとします。</p> <p>レジリエンスの強化について重要な視点ですので、本計画の施策の方向性「「気候変動と関連する災害による影響の低減」に記載されている「事前の備えについて啓発」を行う際の参考にさせていただきます。</p>

<p>提案します。都市ガスはレジリエンスが高く、災害時でも使用できることが多いです。また、都市ガスによる発電（コージェネレーション、停電対応型ガスヒートポンプ、家庭用燃料電池エネファームなど）による電源の二重化で対策を強化することも可能です。</p>		
---	--	--

○ 交通システムの脱炭素化について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	<p>市民の自家用車の利用について、ガソリン車からEV車に切り替えることで環境負荷が軽減されるのではないかと思う。充電スポットの不足に不便さを感じている。この充電環境が改善されなければ、EV車の普及は難しいと考える。具体的な充電設備の整備計画や予算措置について知りたい。経験上、各ガソリンスタンドに2台の充電装置を設置することが利便性向上のために必要だと思う。</p>	1件	<p>EV普及には充電インフラの整備と利用者の利便性向上が重要と認識しています。</p> <p>現時点では、具体的な充電設備の整備計画は定めておりませんが、本計画の方針に基づき具体的な事業を定める計画（つくば市温暖化対策実行計画区域施策編）において、今後施策を検討していく予定です。いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
2	<p>自転車に配慮された道路づくりがなされていない。自転車に乗っている人への教育がなされていないと感じる。つくば市はもともと自転車の移動を主に計画された都市ではなく、自転車の利用について、道路改善から考えるとかなりな予算処置が必要となると思われるが、そのよ</p>	1件	<p>自転車利用の推進のためには、自転車を利用しやすい環境づくりやルールの啓発が重要なことだと考えています。</p> <p>市では「つくば市自転車活用推進計画」（令和7年3月）を策定し、自転車通行空間の計画的な整備推進、交通ルール遵守・マナー向上に関する周知啓発について実施内容を示していま</p>

	うなことは計画しているのか。	す。この計画と連携し、今後も自転車利用を支援する施策を推進します。
--	----------------	-----------------------------------

○ 脱炭素化の取組推進の留意事項について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	<p>「施策の柱 1-1 脱炭素社会の実現に向けた様々な主体の取組の促進」における施策の方向性「大学・研究機関や事業者との連携強化」において、特に事業活動における脱炭素を推進するため、事業者との連携を進めることを追記することを提案します。</p>	1件	<p>当該箇所にて、事業者との連携について触れております。</p> <p>ご意見のとおり、事業活動における脱炭素化を進めるためには、事業者との連携は非常に重要なものと考えています。</p>
2	<p>農地や森林（山林）の減少と太陽光発電パネルの設置には相関関係があると考えている。</p> <p>茨城県およびつくば市は太陽光発電設置数が国内トップクラスであった。再生可能エネルギーと太陽光発電設置の規制問題について、環境審議会で議論してほしい。</p>	1件	<p>市では、平成28年度に制定した「つくば市筑波山及び宝篋山における再生可能エネルギー発電設備の設置を規制する条例」の施行以降、令和6年4月に「つくば市再生可能エネルギー発電設備の適正な設置及び管理に関する条例」を制定し、災害防止や景観保全、地域との調和を目指しています。</p> <p>また、つくば市地球温暖化対策実行計画区域施策編改定専門部会では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく促進区域（地域脱炭素化促進事業の対象となる区域）について議論し、今後、区域施策編の推進と併せて、区域の設定に向けた条件等を検討していくこととしました。</p> <p>環境審議会においても、基本計画や関連計画の進捗管理等に合わせ、注視していきます。</p>

○ 新たな取組提案について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
	<p>循環型社会の形成においては、リサイクルと同様に製品の延命化の促進が重要である。</p> <p>その手法の一つであるリペアおよびリビルドは、市民活動として取り組める効果的な方法と考えられる。</p> <p>その活動の拠点として、オランダ発の「リペアカフェ」がある。</p> <p>リペアカフェは、日常用品（家電、自転車等）を自らまたは経験者のボランティアの支援によりリペア等を行う場所である。</p> <p>運営母体の募集や運営支援、場所の提供、器具やパーツの資金援助、市民への啓発などが行政の役割であると考えられる。</p> <p>つくば市において、そのような取り組みが進むことを期待する。</p>	1件	<p>リペアカフェを通じた「モノを大切にす文化」の醸成は、循環型社会において有意義な視点であると認識しています。</p> <p>市では現在、「つくば市一般廃棄物処理基本計画」に基づきごみを減量するための各種施策を推進しており、いただいたご意見は今後の施策実施の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>温室効果ガス排出量の増加が実際の環境にどのように影響しているのかを市民に示す必要があると考える。</p> <p>例えば、市内に複数のCO2観測ポイントを設置し、そのデータを市民に公開するとともに、他機関の測定結果と比較するなど、市民が興味を持つ取り組みを考えてはどうでしょうか。</p>	1件	<p>温室効果ガスに関する情報や、市民の関心を高める効果的な情報発信は重要です。</p> <p>いただいたご意見は、本計画の方針に基づき具体的な事業を定める計画（つくば市温暖化対策実行計画区域施策編）に紐づく施策実施の参考とさせていただきます。</p>

■ 修正の内容

※パブリックコメントによる修正に加え、市民への分かりやすさを訴求した修正（文書の表現、イラストの一部修正、掲載写真の差し替え等）を行いました。

○ 第1章 計画の基本的事項について

修正前	修正後
<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <温室効果ガス排出量> （グラフ）</p>	<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <u>図1-6 温室効果ガス排出量</u> ※グラフ内の「遅れ」の配置場所を実績を示す位置へと変更</p>
<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <低炭素住宅の新規入居戸数> （グラフ）</p>	<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <u>図1-7 低炭素住宅の新規入居戸数</u> ※グラフ内の「順調」の配置場所を実績を示す位置へと変更</p>
<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <市民満足度調査「低炭素社会の推進」の満足度> （グラフ）</p>	<p>P10 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標1 低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する> <u>図1-8 市民満足度調査「低炭素社会の推進」の満足度</u> ※グラフ内の「遅れ」の配置場所を実績を示す位置へと変更</p>
<p>P11 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性</p>	<p>P11 （6）第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性</p>

<p>②第3次計画の中間の振り返り <基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ> ・評価指標「つくば市の緑地面積」について進捗は「やや遅れ」となっています。評価指標自体について、基本目標の達成を目指していく視点で見ると、量的な面の評価は可能であるものの、質的な面の評価ができないという課題があります。</p>	<p>②第3次計画の中間の振り返り <基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ> ・評価指標「つくば市の緑地面積」について進捗は「遅れ」となっています。評価指標自体について、基本目標の達成を目指していく視点で見ると、量的な面の評価は可能であるものの、質的な面の評価ができないという課題があります(図1-9)。</p>
<p>P11 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ> <つくば市の緑地面積> (グラフ)</p>	<p>P11 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ> 図1-9 つくば市の緑地面積 ※グラフ内の「やや遅れ」を「遅れ」に修正し、その配置場所を実績を示す位置へ変更 ※グラフ縦軸のスタートポイントをゼロへと修正</p>
<p>P11 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標3 資源を賢く使う循環型社会に近づく> ・評価指標「市民一人当たりの生活系ごみ排出量」の進捗は「順調」となっています。 (グラフ)</p>	<p>P11 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標3 資源を賢く使う循環型社会に近づく> ・評価指標「市民一人当たりの生活系ごみ排出量」の進捗は「順調」となっています(図1-10)。 ※グラフ縦軸のスタートポイントをゼロへと修正</p>
<p>P11 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標3 資源を賢く使う循環型</p>	<p>P12 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標3 資源を賢く使う循環型</p>

<p>社会に近づく> <市民一人当たりの事業系ごみ排出量> (グラフ)</p>	<p>社会に近づく> <u>図1-11</u> 市民一人当たりの事業系ごみ排出量 <u>※グラフ内の「やや遅れ」を「遅れ」に修正し、その配置場所を実績を示す位置へ変更</u> <u>※グラフ縦軸のスタートポイントをゼロへと修正</u></p>
<p>P12 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標4 安心で快適な生活環境で暮らす> <市民の環境不満足度> (グラフ)</p>	<p>P12 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標4 安心で快適な生活環境で暮らす> <u>図1-13</u> 市民の環境不満足度 <u>※グラフ内の「やや遅れ」を「遅れ」に修正し、それ以外の「順調」の3つもあわせて、配置場所を実績を示す位置へ変更</u></p>
<p>P13 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標5 市民一人ひとりが環境を考え、行動する> <環境配慮行動を行った市民の割合> (グラフ)</p>	<p>P13 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標5 市民一人ひとりが環境を考え、行動する> <u>※グラフ内の「遅れ」の配置場所を実績を示す位置へ変更</u></p>
<p>P13 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標5 市民一人ひとりが環境を考え、行動する> <つくば市主催・共催の環境啓発事業参加者数> (グラフ)</p>	<p>P13 (6)第3次計画の中間の振り返りと今後の方向性 ②第3次計画の中間の振り返り <基本目標5 市民一人ひとりが環境を考え、行動する> <つくば市主催・共催の環境啓発事業参加者数> <u>※グラフ内の「遅れ」の配置場所を実績を示す位置へ変更</u></p>

○ 第2章 目指すべき将来像について

修正前	修正後
P19 (1) 目指すべき将来像 (イラスト)	P19 (1) 目指すべき将来像 ※イラストを修正
P22 (2) 将来像を実現するための施策体系 施策の方向性 4-2 安全で安心できる生活環境の確保 ○有害化学物質の適正な管理	P22 (2) 将来像を実現するための施策体系 施策の方向性 4-2 安全で安心できる生活環境の確保 ○化学物質の適正な管理

○ 第3章 将来像の実現に向けた基本目標について

修正前	修正後
P27 施策の柱 1-1 脱炭素社会の実現に向けた様々な主体の取組の促進 (つくば市脱炭素ブランディングロゴデザインの図)	P27 施策の柱 1-1 脱炭素社会の実現に向けた様々な主体の取組の促進 ※削除
P29 施策の柱 1-2 まち・建物の脱炭素化 施策の方向性 ○省エネルギー化の促進 省エネ設備の導入や電化に向けた設備更新、効率的なエネルギーマネジメントシステムの導入、既存住宅・建物の断熱改修等の支援や周知を行い、まち・建物の省エネルギー化を促進します。	P29 施策の柱 1-2 まち・建物の脱炭素化 施策の方向性 ○省エネルギー化の促進 省エネ設備の導入や電化等に向けた設備更新、効率的なエネルギーマネジメントシステムの導入、既存住宅・建物の断熱改修等の支援や周知を行い、まち・建物の省エネルギー化を促進します。
P31 施策の柱 1-4 気候変動への適応 ②市民・事業者に期待される取組 市民に期待される取組 ○日頃から気候変動に適応することの重要性について関心と理解を深める ○つくば市ハザードマップを確認するなど、風水害に対する事前の備えを行う	P31 施策の柱 1-4 気候変動への適応 ②市民・事業者に期待される取組 市民に期待される取組 ○日頃から気候変動に適応することの重要性について関心と理解を深める ○「つくば市防災ガイド 洪水・土砂ハザードマップ」を確認するなど、風水害に対する事前の備えを行う

<p>事業者に期待される取組 ○従業員の安全のため、<u>つくば市ハザードマップ</u>を確認するなど、風水害に対する事前の備えを行う</p>	<p>事業者に期待される取組 ○従業員の安全のため、「<u>つくば市防災ガイド 洪水・土砂ハザードマップ</u>」を確認するなど、風水害に対する事前の備えを行う</p>
<p>P33 ●計画の成果を測る指標 <施策の柱の評価指標> ③まちなかで適切に管理・手入れされた緑を目にする頻度が増えたと感じる人の割合 目標値：<u>50.0%</u>（2030年度）</p>	<p>P33 ●計画の成果を測る指標 <施策の柱の評価指標> ③まちなかで適切に管理・手入れされた緑を目にする頻度が増えたと感じる人の割合 目標値：<u>62.3%</u>（2030年度）</p>
<p>P33 ●計画の成果を測る指標 <施策の柱の評価指標> ④自然体験施設利用者数 目標値：<u>55,500人</u>（2030年度）</p>	<p>P33 ●計画の成果を測る指標 <施策の柱の評価指標> ④自然体験施設利用者数 目標値：<u>55,000人</u>（2030年度）</p>
<p>P34 施策の柱 2-1 生き物・生態系の保全・活用 ①施策の方向性 ○生物多様性戦略の実行 「<u>生物多様性戦略</u>」を実行し、市の生物多様性に関する施策を戦略的かつ計画的に進めます。<u>同戦略では、生物多様性に配慮した事業活動の推進を掲げており、生物多様性を意識した事業活動に関する普及啓発、事業活動に生物多様性を統合するための支援、開発に伴う環境影響評価等への対応などを行います。</u></p>	<p>P34 施策の柱 2-1 生き物・生態系の保全・活用 ①施策の方向性 ○生物多様性戦略の実行 「<u>生物多様性つくば戦略</u>」を実行し、市の生物多様性に関する施策を戦略的かつ計画的に進めます。<u>同戦略では、事業活動に生物多様性を統合するための支援、開発に伴う環境影響評価等への対応などによる「生物多様性に配慮した事業活動の推進」や、つくば市生物多様性センター（仮称）の設立などによる「推進体制の充実」等を掲げており、生物多様性を意識した事業活動に関する普及啓発や実行力のある推進体制の構築等を行います。</u></p>
<p>P36 施策の柱 2-2 都市の緑を創出し、質を高める ①施策の方向性</p>	<p>P36 施策の柱 2-2 都市の緑を創出し、質を高める ①施策の方向性</p>

<p>○開発に伴う緑地の減少を抑制 つくばエクスプレス沿線地区や中心市街地周辺などの開発に伴う緑地の減少を抑制するため、地区計画制度を活用し、緑地の確保に努めます。</p>	<p>○開発に伴う緑地の減少を抑制 つくばエクスプレス沿線地区や中心市街地周辺などの開発に伴う緑地の減少を抑制するため、地区計画制度を活用し、質の高い緑地の確保に努めます。</p>
<p>P37 施策の柱 2-3 自然とふれあう (「グリーンツーリズム」の写真)</p>	<p>P37 施策の柱 2-3 自然とふれあう ※写真を「つくばジオミュージアム」に差し替え</p>
<p>P37 基本目標 3 資源を賢く使う循環型社会形成を加速する ●現状と課題 (「プラスチック製容器包装の分別」の写真)</p>	<p>P37 基本目標 3 資源を賢く使う循環型社会形成を加速する ●現状と課題 ※写真を「ごみ分別アプリ さんあ〜る」に差し替え</p>
<p>P43 ●現状と課題 本市では、清潔できれいな生活環境が保持されたまちをつくるための「きれいなまちづくり行動計画」に基づき、参加型ボランティアプロジェクト(きれいきれい大作戦など)による環境美化活動や市内一斉清掃、野焼きや不法投棄を防止する定期的なパトロールなどを実施してきました。今後も引き続き、きれいなまちづくりに向けた取組を推進することが必要です。 市内で実施している環境モニタリングの結果によると、法令に基づく環境基準は概ね達成している現状にあります。これまでどおり、法令に基づく指導や監視を行い、生活排水や水道の普及率向上などに努め、<u>生活環境の改善を図ることが重要です</u>。一方、自動車騒音は、常時監視によるシミュレーション結果では一部環境基準を達成できておらず、さらに、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下)</p>	<p>P43 ●現状と課題 本市では、清潔できれいな生活環境が保持されたまちをつくるための「きれいなまちづくり行動計画」に基づき、参加型ボランティアプロジェクト(きれいきれい大作戦など)による環境美化活動や市内一斉清掃、野焼きや不法投棄を防止する定期的なパトロールなどを実施してきました。今後も引き続き、きれいなまちづくりに向けた取組を推進することが必要です。 市内で実施している環境モニタリングの結果によると、法令に基づく環境基準は概ね達成している現状にあります。これまでどおり、法令に基づく指導や監視を行い、生活排水や水道の普及率向上などに努め、<u>生活環境の改善を図るほか、環境モニタリングの結果等の情報を市民に周知していくことが重要です</u>。一方、自動車騒音は、常時監視によるシミュレーション結果では一部環境基準を達成できておらず、さらに、典型7公害</p>

<p>の中では騒音に関する苦情件数が最も多くなっており、騒音に対する対策をこれまで以上に進めることが必要です。また、苦情解決率について、令和6年度（2024年度）は、大気汚染・悪臭が63%、騒音・振動が40%、水質汚濁は94%となっています。</p> <p>今後、市民が安心して快適に暮らしていけるよう、生活環境の改善をさらに推進していくことが求められます。</p>	<p>（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下）の中では騒音に関する苦情件数が最も多くなっており、騒音に対する対策をこれまで以上に進めることが必要です。また、苦情解決率について、令和6年度（2024年度）は、大気汚染・悪臭が63%、騒音・振動が40%、水質汚濁は94%となっています。</p> <p>今後、<u>法令を満たして満足するのではなく</u>、市民が安心して快適に暮らしていけるよう、生活環境の改善をさらに推進していくことが求められます。</p>
---	---

○ 第4章 基本目標の実現を推進する横断的目標について

修正前	修正後
<p>P49 横断的目標① 市民・事業者が共に環境を学び、考え、行動する （「つくば市桜川探検隊事業の様子」の写真）</p>	<p>P49 横断的目標① 市民・事業者が共に環境を学び、考え、行動する <u>※写真を「つくば市環境教育コンテンツ」に差し替え</u></p>

○ 資料編について

修正前	修正後
<p>P60 基本目標4 安心して快適な生活環境を次世代につなぐ ○施策の柱 4-2 安全で安心できる生活環境の確保 <u>⑤有害化学物質の適正な管理</u></p>	<p>P60 基本目標4 安心して快適な生活環境を次世代につなぐ ○施策の柱 4-2 安全で安心できる生活環境の確保 <u>⑤化学物質の適正な管理</u></p>
<p>P62 基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ <施策の柱の評価指標> ③まちなかで適切に管理・手入れされた緑を目にする頻度が増えたと感じる人の割合 目標値：<u>50.0%</u>（2030年度） 目標値設定の根拠：</p>	<p>P62 基本目標2 豊かな自然環境・生物多様性を未来につなぐ <施策の柱の評価指標> ③まちなかで適切に管理・手入れされた緑を目にする頻度が増えたと感じる人の割合 目標値：<u>62.3%</u>（2030年度） 目標値設定の根拠：</p>

<p>都市の緑の質的状況の維持・向上を 目指し、50%を目標値として設定</p>	<p>アンケートにおいて「あまりそう 思わない」と答えた方の3分の1が「非 常にそう思う」又は「ある程度そう思 う」を選ぶことを目指し、目標値を設 定</p>
<p>P62 基本目標2 豊かな自然環境・生物多様 性を未来につなぐ ＜施策の柱の評価指標＞ ④自然体験施設利用者数 目標値：<u>55,500人</u>（2030年度）</p>	<p>P62 基本目標2 豊かな自然環境・生物多様 性を未来につなぐ ＜施策の柱の評価指標＞ ④自然体験施設利用者数 目標値：<u>55,000人</u>（2030年度）</p>
<p>P85 ＜環境に関する情報の共有＞ ＜結果・傾向＞ ・「非常にそう思う」・「ある程度そう 思う」が 33.8%、「あまりそう思わない」 ・「全くそう思わない」が 56.5%、その 他が 9.7%となっている。 ・従業員数別の「非常にそう思う」と「あ る程度そう思う」の合計値をみると、従 業員数が多いほど割合が高い傾向にあ り、「50人以上～100人未満」、「100 人以上」では全体の4割を超えている。</p>	<p>P84 ＜環境に関する情報の共有＞ ＜結果・傾向＞ ・「非常にそう思う」・「ある程度そう 思う」が 33.8%、「あまりそう思わない」 ・「全くそう思わない」が 56.5%、その 他が 9.7%となっている。 <u>（※説明文を削除）</u></p>